

# 「話題の品種」

188

ブドウ

「香大農（かだいのう）R-1」



◎来歴

本種は、西南暖地でも着色性の優れるブドウ品種の開発を目標に、一九八九年に大阪府立大学農学部（現、生命環境科学部）実験圃場（大阪府堺市）において、高温でも果皮着色の優れる沖縄県鳩間島産の野生種リュウキユウガナブを種子親に、大果で食味の優れる「マスカット・オブ・アレキサンドリア」を花粉親にして交配し、その実生の中から選抜、二〇〇〇年からは香川大学農学部附属農場（香川県さぬき市）で増殖を行いながら特性の調査をし、二〇〇六年二月二七日に品種登録（登録番号・第一三六四六号）された。

◎樹の特性

樹勢は強く、樹の広がりは大である。熟梢の太さは太く、色は褐色であるが、木化、落葉は遅い。芽の自發休眠は浅く、低温要求量は少ない。花房の着生数は中、花性は両性である。副梢にも花房を着生する四季成り性を示す。豊産性。育成地における収穫期は、九月下旬から一〇月上旬である。

○果実の特性  
果粒の形は円形で、果粒直径は

約1cm、果粒重は約1g、果房重は300～500g、時には800gを超す大房になることもある。果皮色は青黒色もしくは紫黒色、果肉色は緑色で、果粉は多い。果皮は厚く、裂果はまず見られない。果皮と果肉の分離は容易で、種子数は多い。大房や高温が原因の赤熟はまずおきない。糖度は一二〇%と高く、酸度も一%程度と高い。果実の香りはほとんどない。醸造したワインは色調が極めて濃く、アントシアニン、ポリフェノール等を既存のワインより多く含むが、渋みは少ないため、口当たりは軽くのど越しは良い。

◎栽培上の留意点

開花期の気温が低いと花振いを起こしやすく、収穫期が遅いため温暖な地域に向く品種である。ベト病、ウドンコ病に罹病しやすく、開花期の病害防除の徹底や雨除け栽培ははずせない。一方、コクトウ病、サビ病には抵抗性を示す。新梢生長が旺盛な上、側枝も発生しやすいため、すぐ枝が込み合う。

（望岡亮介・香川大学農学部附属農場）さぬき市昭和字谷乙三〇〇